

1-62 平行弦連続ワーレントラスの計算法

三菱重工業株式会社 正員 熊野哲幹
名古屋大学工学部 正員 成岡昌夫

この研究はトラスを *Reduktion* 法を用いて解析することを目的とする。すなわち、左端の初期値を右端の条件により決定し、この初期値を用いて、各節点の変位量、および、各部材力を決定するのである。

いま、平行弦連続ワーレントラス(図-1)について考える。

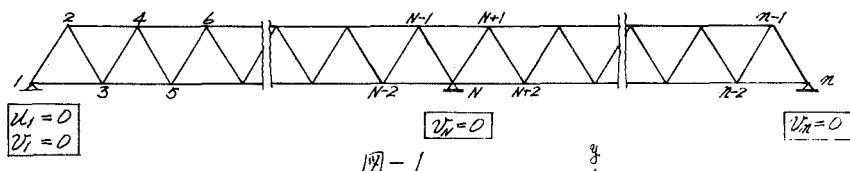


図-1

座標を図-2のように定め、 u , v 方向の変位量を、それぞれ、 U , V として、各部材力を節点の変位量によって表わすと、次のようである。

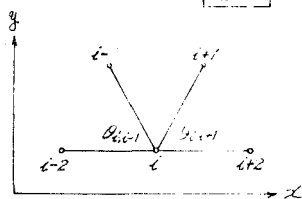


図-2

$$S_{i,i-2} = K_{i,i-2} (U_i - U_{i-2})$$

$$S_{i,i-1} = K_{i,i-1} \{ (U_i - U_{i-1}) \cos \theta_{i,i-1} + (V_i - V_{i-1}) \sin \theta_{i,i-1} \}$$

$$S_{i,i+1} = K_{i,i+1} \{ (U_{i+1} - U_i) \cos \theta_{i,i+1} + (V_{i+1} - V_i) \sin \theta_{i,i+1} \}$$

$$S_{i,i+2} = K_{i,i+2} (U_i - U_{i+2})$$

ただし、 i が上弦材節点であるか、下弦材節点であるかによって、符号は多少異なる。

つぎに任意の節点 i での釣合を考え、 $B_{ij} = K_{ij} \cos^2 \theta_{ij}$, $C_{ij} = K_{ij} \sin \theta_{ij} \cos \theta_{ij}$, $D_{ij} = K_{ij} \sin^2 \theta_{ij}$ として整理すると、次のようになる。

$$\left. \begin{aligned} V_{i+1} &= \frac{1}{D_{i,i+1}} \{ C_{i,i+1} U_{i-1} - (C_{i,i-1} - C_{i,i+1}) U_i - C_{i,i+1} U_{i+1} - D_{i,i-1} V_{i-1} + (D_{i,i-1} + D_{i,i+1}) V_i + W_i \} \\ U_{i+2} &= \frac{1}{K_{i,i+2}} \{ -K_{i,i+2} U_{i-2} - B_{i,i-1} U_{i-1} + (K_{i,i+2} + B_{i,i-1} + B_{i,i+1} + K_{i,i+1}) U_i - B_{i,i+1} U_{i+1} \\ &\quad + C_{i,i-1} V_{i-1} - (C_{i,i-1} - C_{i,i+1}) V_i - C_{i,i+1} V_{i+1} \} \end{aligned} \right\} \quad (1)$$

ここで式(1)を初期値 U_2, U_3, V_2 によって表わすと、

$$\left. \begin{aligned} V_{i+1} &= \alpha_{i+1,1} U_2 + \alpha_{i+1,2} U_3 + \alpha_{i+1,3} V_2 + \alpha_{i+1,4} \\ U_{i+2} &= \beta_{i+2,1} U_2 + \beta_{i+2,2} U_3 + \beta_{i+2,3} V_2 + \beta_{i+2,4} \end{aligned} \right\} \quad (2)$$

となり、この中で、 α , β は次のように表わされる。

$$\left. \begin{aligned} \alpha_{i+1,j} &= \frac{1}{D_{i,i+1}} \{ C_{i,i+1} \beta_{i+1,j} - (C_{i,i-1} - C_{i,i+1}) \beta_{i,j} - C_{i,i+1} \beta_{i+1,j} - D_{i,i-1} \alpha_{i-1,j} + (D_{i,i-1} + D_{i,i+1}) \alpha_{i,j} \} \\ &\quad (1 \leq j \leq 3) \\ \alpha_{i+1,4} &= \frac{1}{D_{i,i+1}} \{ C_{i,i+1} \beta_{i+1,4} - (C_{i,i-1} - C_{i,i+1}) \beta_{i,4} - C_{i,i+1} \beta_{i+1,4} - D_{i,i-1} \alpha_{i-1,4} + (D_{i,i-1} + D_{i,i+1}) \alpha_{i,4} \} \end{aligned} \right\} \quad (3)$$

$$\beta_{i+2,i} = \frac{1}{K_{i+2,i}} \left\{ -K_{i+2,i} \beta_{i+2,i} - B_{i+1,i} \beta_{i+1,i} + (K_{i+2,i} + B_{i+1,i} + B_{i+1,i} + K_{i+2,i}) \beta_{i,i} - B_{i+1,i} \beta_{i+1,i} - C_{i+1,i} \alpha_{i+1,i} \right. \\ \left. (1 \leq i \leq 4) \quad - (C_{i+1,i} - C_{i+1,i}) \alpha_{i,i} - C_{i+1,i} \alpha_{i+1,i} \right\}$$

ただし, $\beta_{2,1}=1, \beta_{2,2}=\beta_{2,3}=\beta_{2,4}=0, \alpha_{2,1}=1, \alpha_{2,2}=\alpha_{2,3}=\alpha_{2,4}=0, \beta_{3,2}=1, \beta_{3,1}=\beta_{3,3}=\beta_{3,4}=0$,
である。また、外力によって生ずる中間支変反力を R_N として、支変での各方向の釣合を考えると、式
(3) のうちの $\alpha_{n+1,i}$ だけが、次のようになる。

$$\alpha_{n+1,i} = \frac{1}{D_{n,n+1}} \left\{ C_{n,n+1} \beta_{n+1,i} - (C_{n,n+1} - C_{n,n+1}) \beta_{n,i} - C_{n,n+1} \beta_{n+1,i} - D_{n,n+1} \alpha_{n+1,i} + (D_{n,n+1} + D_{n,n+1}) \alpha_{n,i} + W_n - R_n \right\}$$

ここで R_n は未知量であるので、 $v_n=0$ を考慮して、イテラチオン法により計算を進める。以上により
すべての節変の変位は初期値 u_2, u_3, v_2 と外力によって表わされることになる。

つぎに、初期値 u_2, u_3, v_2 は、つぎの3つの釣合方程式により決定できる。

$$\sum F_{n+1,y} = 0; -C_{n+1,n+2} u_{n+2} + (C_{n+1,n+2} - C_{n+1,n+1}) u_{n+1} + C_{n+1,n+1} u_n - D_{n+1,n+2} v_{n+2} + (D_{n+1,n+2} + D_{n+1,n+1}) v_{n+1} = 0$$

$$\sum F_{n+1,x} = 0; K_{n+1,n+3} u_{n+3} + B_{n+1,n+2} u_{n+2} - (K_{n+1,n+3} + B_{n+1,n+2} + B_{n+1,n+1}) u_{n+1} + B_{n+1,n+1} u_n \\ + C_{n+1,n+2} v_{n+2} - (C_{n+1,n+2} - C_{n+1,n+1}) v_{n+1} = 0$$

$$\sum F_{n,x} = 0; K_{n,n+2} u_{n+2} + B_{n,n+1} u_{n+1} - (K_{n,n+2} + B_{n,n+2}) u_n - C_{n,n+1} v_{n+1} = 0$$

すなわち、これらの3つの方程式を初期値 u_2, u_3, v_2 によって表わし、その後、これらを連立方程式
として解けば、初期値 u_2, u_3, v_2 が決定される。次いで、すべての変位が求められる。従って、すべ
ての部材応力が求められるわけである

なお、この方法を N 径間連続の場合に対して、IBM 7090 に対してプログラムした。

そのフローチャートを次に示す。

